

2026  
7月

# 月次 39レター

毎月発行するお客さまへのお知らせレターです

第 263 号-① 【基準日 2026 年 6 月 30 日】



## 🌸 社長メッセージ



### 時代の転換点をどう生きていくか

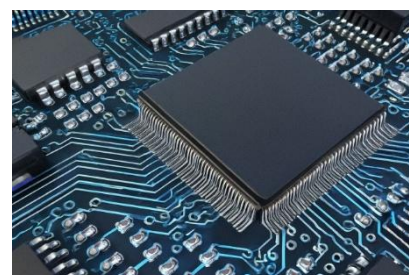
ありがとう投信株式会社  
代表取締役社長 長谷 俊介



皆さま、いつもありがとう投信をご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。早いもので今年も半年が過ぎました。FIFAワールドカップで熱戦が繰り広げられていますが、いかがお過ごしでしょうか？最近、地震や台風などによる自然災害が増えていますのでくれぐれもお気を付けください。

さて、先月の世界のマーケットですが、AI・半導体株の上昇相場が一服して一進一退の1ヶ月となりました。米国株はNYダウが+2.5%となる一方で、ナスダックは-2.8%の下落となりました。上旬はインフレ懸念や中東情勢を受けて下落しましたが、中旬には米国とイランの和平交渉が進展し原油価格が下落したことから上昇しました。下旬にはAI・半導体関連株への高値警戒感や資金調達懸念が重石になりましたが、月末にはテック株中心に買い戻される展開となりました。

日本株についてはAI・半導体関連需要増加期待や中東情勢に対する懸念が後退したことから日経平均は+5.6%の上昇、TOPIXは+0.9の上昇となり、日経平均株価は月中に7万2千円を超えて史上最高値を更新しました。また、日銀は金融政策決定会合で0.25%利上げし、政策金利は1.0%と、1995年以来31年ぶりの高水準になりました。



一方で、金（ゴールド）については、ドル高や米国の利上げ観測が高まったことによって大きく下落し1トロイオンス4000ドル台で月末を迎えました。為替相場についてはドル高が進んで160円台を突破し為替介入が警戒される中、162円台半ばの水準で月末を迎えました。そのような中でありがとうファンドは月間で-1.0%の下落となりましたが、月中には、基準価額が5万1千円を突破し、純資産額は約331億円の最高値を更新することができました。為替が円安に振れたことがプラス寄与となった一方で、金ETFが大きく下落したことがマイナス寄与となりました。

今後の見通しですが、米国とイランが戦闘終結の覚書に署名したことによって、中東情勢に対する懸念が後退しましたが、戦争前の状態に戻るには相当な時間がかかるものと考えられますので、原油価格の高止まりと供給制約は長期間続くとする見方が多く、インフレ圧力は継続し、金利は高止まり、株式市場はボラティリティの高い相場展開が継続していくと思われます。

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人資産運用業協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。



また、株式市場を牽引しているAI・半導体株ブームについては期待と不安が交錯する状態が続くと見られ、高値警戒感があるものの今後の業績期待から株価がさらに上昇する可能性もある中、ハイパースケーラーの巨額設備投資とFCF圧迫問題やデータセンター建設の進捗状況などのリスクも意識されはじめていることに注意が必要で値動きの荒い展開になると考えられます。

## 時代の転換点をどう生きていくか

終わりの見えないウクライナ戦争と中東イラン情勢、トランプ政権の反グローバリゼーションによる保護貿易と自国優先主義、生成AIの急速な普及とAI・半導体株ブーム、世界的なインフレ、超円安など、私達を取り巻く環境はコロナ禍以降に大きく変わってしまいました。

日本は失われた30年を経て、出生数はコロナ禍以降激減し、死亡者は急増して少子高齢化と人口減少が加速する中、インフレと円安が進行して金利は上がり、実質賃金も年金も物価上昇には追いつかないまま庶民の生活は苦しくなるばかりで、「衰退途上国」と揶揄されるようにまでなってしまいました。

長かったデフレ時代からインフレ時代への転換点を今、私達は生きていますが、20～30年続いたデフレマインドから頭を切り替えるのはなかなか難しいのではないのでしょうか。

しかし、何も変えずに今までと同じ考え方で生活していけば、インフレ時代にはジリ貧になっていく可能性が少なくないと思われます。身近な小さなことからでも少しずつ変えていくことが大切で、それが将来振り返ったときに大きな違いになってくるのではないかと思います。

資産運用においては、物価上昇が今後も続いていく見通しの中、モノの価値が上がり、お金の価値が下がるので、私達が保有している現預金は実質目減りして購買力が低下していきますので、資産防衛の観点からインフレに対応できる株式などの資産にも分散投資する必要性が増してくると思われれます。そして、分散投資では、国や地域の「国際分散」と資産クラスや投資対象・銘柄、通貨等の分散の「資産分散」、購入タイミングを分けて継続的に積立投資していく「時間分散」を組み合わせ、時間軸を長期で考える「長期投資」をしていくことで、リスクを抑えながら長期的な資産の成長を目指していくことができると考えます。

今後もありがとうファンドは、お客さまから託されたご資金を長期投資で世界経済及び企業利益の成長の恩恵を長期で享受できるように国際分散投資をするとともに、地政学リスクやイベントリスク、インフレリスクに備えて金（ゴールド）にも投資することでダウンサイドリスクを抑えながら安定した運用成果の提供を目指して運用を行って参ります。

弊社では、時代の転換点においても、お客様に寄り添って、お客様の資産運用が成功するように一生サポートさせて頂ければと考えておりますので、引き続きありがとう投信をご愛顧いただきますよう何卒よろしくお申し上げます。



## ★ 積立投資のすすめ！

長期投資には、コツコツと分散しながら長期に渡って購入する「定期積立サービス」がおすすめです。

### 「定期積立サービス」とは

…毎月決まった日にお客様が決めた金額を、自動で購入してお客様の資産をコツコツ積み立てていくやり方です。引落とし手数料も無料♪お忙しい方にもおすすめの投資方法です。



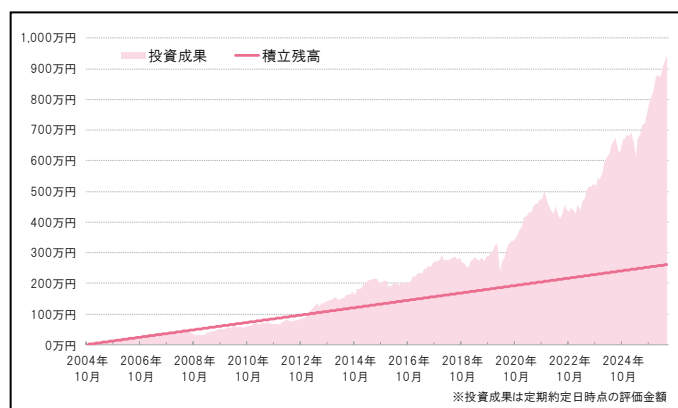
### ①『無理なく続けられる』

お手元にまとまった資金がなくても、毎月少しずつ積み立てることで大きな資産へとつながっていきます。貯金感覚で続けていきながら、複利効果でリターンチャンスとなります。

期間	平均取得単価	損益
1年	44,674円	+12.2%
3年	36,829円	+36.1%
5年	31,681円	+58.2%
10年	23,289円	+115.2%
初回(2004年10月)から	13,987円	+258.3%

### ②『リスクを分散』

定額での購入で基準価額が高い時に少なく、安い時に多く投資することができます(ドル・コスト平均法)。相場が良い時も悪い時も投資を続けることで、平均買付単価を低く抑える方法です。



### ③『時間分散』

タイミングを分けることで、リスクを分散することができます。時間を味方につけることで、長期でじっくり投資を続けることができます。



**タイミングを見計らうのではなく、  
時間を味方につけていきましょう！**

＜ご参考＞毎月1万円積立した場合		
期間	投資額	評価額
1年	12万円	13万4613円
3年	36万円	48万9864円
5年	60万円	94万9101円
10年	120万円	258万2197円
初回(2004年10月)から	261万円	935万1280円

2026年6月30日現在(基準価額:50,114円)

投資信託をいつ買えばよいか？とのお客様の声が多いですが、投資信託は、タイミングではなく、**時間の分散が効果的**です。長期で常にタイミングを計ることはとても難しく、かなりの労力を必要とし、それでも確実にいいタイミングで買える保証はありません。

それよりも、ゆっくりと長い時間をかけて、コツコツ投資していくほうがはるかに続けやすく買付単価が平均化されることで、分散の効果が得られます。

※上記表は毎月同一金額を継続して積立した場合の平均取得単価となります。  
※積立による購入は将来の収益を保証、基準価額下落時における損失を防止するものではありません。  
※計算過程で出る端数の処理等、損益比率計算過程において簡略化した計算式を用いています。

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人資産運用業協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

## 🌸 今月のFP情報コラム

弊社FPが家計に役立つ様々な情報を毎月発信していきます！  
皆さまの金融リテラシー向上の一助にもなれば幸いです。

### 自宅を売っても住み続けられる？「リースバック」の基本と注意点

「住み慣れた我が家を離れたくない。でも、まとまったお金が必要になった…」人生には、教育資金、医療費、住宅ローンの返済、老後資金、あるいは事業資金など、急にまとまった資金が必要になる局面があります。

しかし、自宅を売却して資金を作るとなると、引っ越しや環境の変化、周囲の目が気になり、二の足を踏んでしまう方も少なくありません。そんな「家を売りたいけれど、引っ越したくない」という悩みを解決する手段として、注目を集めているのが「リースバック」です。しかし、便利なサービスとして広まる一方で、トラブルも増えています。

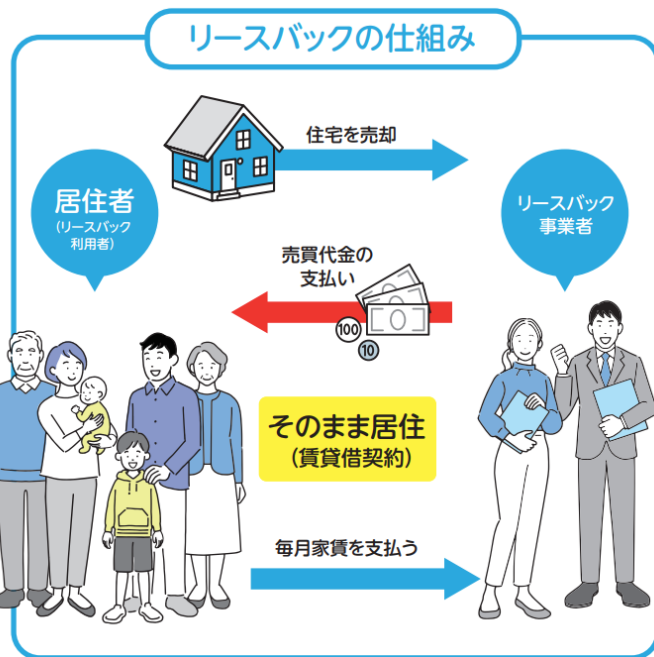


今回はリースバックの仕組みと持ち家という大きな資産を手放す前に、確認すべき注意点を解説します。

#### リースバックの仕組みと特徴

リースバック(正式名称:セール&リースバック(Sale & Leaseback))とは、自宅(持ち家)をリースバック業者に売却してまとまった現金を得たうえで、売却後はその売却先に家賃を支払うことでそのまま同じ家に住み続けられる不動産取引の仕組みです。

売却してしまうので所有権はなくなりますが、条件次第では将来的に買い戻せることもあります。



出典:国土交通省【住宅のリースバックに関するガイドブック】

<https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/content/001489269.pdf>



## リースバックのメリットとデメリット

メリット	デメリット
現在の住宅にそのまま住み続けられる	通常の売却価格よりも安い傾向がある
まとまった資金がすぐに得られる	毎月の家賃が発生し、高くなる可能性がある
維持コストや所有リスクがなくなる	「定期賃貸借契約」で長く住めない可能性がある
条件を満たせば、将来的に家を買戻すことも可能	自宅の所有権を失う

リースバックの最大のメリットは、住み慣れた我が家を離れることなく、短期間でまとまった資金を確保できる点にあります。一般的な不動産売却では引き渡しと同時に退去しなければなりません。リースバックであれば生活環境を変える必要がありません。そのため、近所の人や周囲に自宅を売却した事実を知られにくく、プライバシーを守れるという利点もあります。さらに、住宅ローンの残債を一括返済して毎月の負担を軽くしたり、老後の生活資金や事業資金、医療費といった急な出費に充てたりすることも可能です。また、不動産の所有者ではなくなるため、毎年課税される固定資産税や都市計画税、マンションの場合の修繕積立金といった維持費の支払いがなくなるというメリットもあります。将来的に資金に余裕ができた場合には、売却した自宅を再び買戻すことができる契約(買戻権)を盛り込める点も、通常の売却にはない特徴です。



一方で、リースバックには資産価値や費用の面でいくつかの注意すべきデメリットがあります。まず、自宅の売却価格が市場の相場よりも安くなる傾向があり、一般的には市場価格の7割～8割程度での買い取りとなるケースが多いようです。その反面、売却後に支払う毎月の家賃は、売却価格をベースに算出されるため(売却価格が高いほど、家賃も高くなるのが基本原則)、周辺の賃貸相場よりも高く設定されることが珍しくありません。また、賃貸契約が「定期借家契約」の場合、契約期間が満了した際に貸主側の意向によっては契約更新ができず、最終的には退去を迫られるリスクを含んでいます。さらに、名義が完全に他者へ移るため、将来的にその不動産を子供や親族に資産として相続させることができなくなる点や、リフォームなどを自分の意思だけで自由に行えなくなる点もあらかじめ理解しておく必要があります。

## リースバックの利用時の注意事項

### ●契約内容は必ず確認する

リースバック契約の契約書は、「売買契約書」と「賃貸借契約書」の2種類で構成されます。トラブル防止のために契約書の内容をよく確認して、納得したうえで契約を締結しましょう。契約書の主な記載内容は以下の通りです。

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人資産運用業協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

売買契約書	賃貸借契約書
<ul style="list-style-type: none"> <li>・売主と買主</li> <li>・物件情報、物件の告知事項、故障箇所など</li> <li>・売買価格、決済(引渡し)の日程</li> <li>・手付金</li> <li>・所有権の移転時期</li> <li>・買戻しの条件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通借家契約と定期借家契約か否か</li> <li>・期間・賃料・敷金、諸費用等の金額</li> <li>・賃料等の支払い方法および期限</li> <li>・家の所有者が変更された場合の取り扱い</li> <li>・途中解約の方法</li> <li>・リフォームや修繕について</li> <li>・退去時の原状回復について</li> </ul>

リースバックは自宅を売却する「不動産売買契約」になるため、法律上クーリングオフの対象外で、契約を解約する場合、高額な違約金を求められることもあります。また、「買戻し」は当然の権利ではないため希望する場合は、口約束ではなく、契約書に具体的な条件を記載してもらうことが重要です。契約書の内容は隅々まで確認し、不明な点は遠慮なく確認し、回答は書面でもらうようにしましょう。

### ●提示された価格について、信頼できる業者で複数社比較検討する

業者により「売却価格」「家賃設定」「賃貸契約期間」などに大きな差が出ます。必ず複数社の査定額を比較し、「売却価格」や「月々の賃料」が適正か(相場から大きく外れていないか)、また仲介手数料や更新料などの諸費用を含む総コストを比較し、手元に残る資金と毎月の支出のバランスを見極めることが重要です。

### ●無理のない資金計画を立てる

リースバックは、売却によりまとまった資金が手元に入りますが、月々の家賃の支払いは続きます。リースバック利用後の月々の賃料は、周辺相場より高めになるので、「売却代金(受け取る金額)」と「総支払額(賃料として払う金額)」を比較し、年金や毎月の収入、生活費、老後資金を考慮し、長期的な収支シミュレーションをして毎月の家賃負担が適正なのかどうかを確認しましょう。

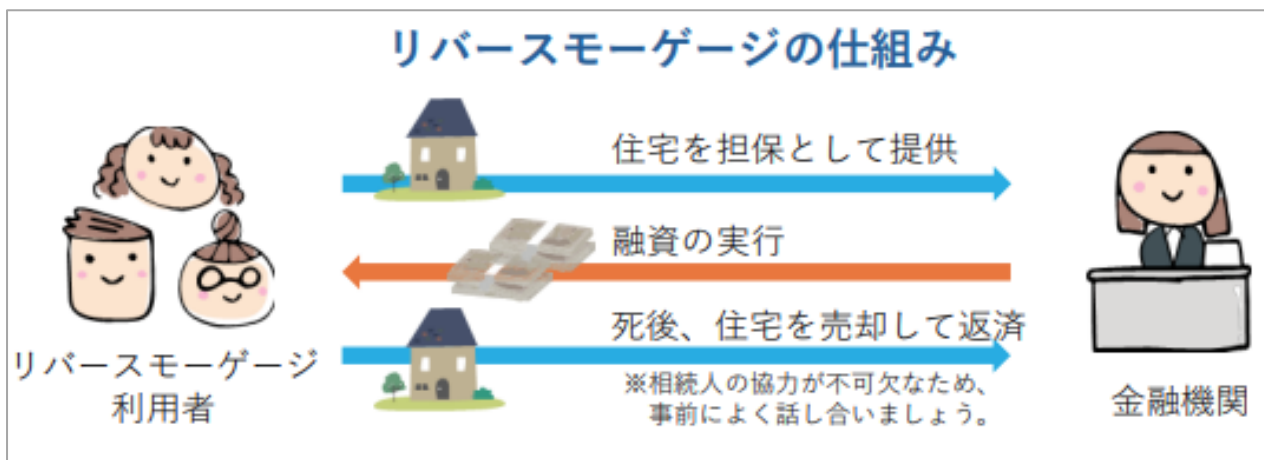


### ●事前に家族に相談する

将来の相続トラブルや、家賃の支払いが困難になった際の生活への影響を考慮すると、事前に家族へ相談しておくことをおすすめします。また、リースバックではなく「通常の売却」や「融資(リバースモーゲージ)」など他の手法が適している場合もあります。他の手法と十分比較検討をし、ご家族や複数の専門家に相談をしてご自身のライフプランに合った条件・手法を選びましょう。

## リースバックとリバースモーゲージの違いとは？

現在お住まいの自宅をもとに資金を得る方法として「リースバック」のほかに「リバースモーゲージ」があります。



出典：国土交通省【住みながら生前などに売却する仕組み(リースバック・リバースモーゲージ)】

<https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/content/001753628.pdf>

どちらも「今住んでいる自宅を手放さずに、まとまった資金を調達できる」方法ですが、具体的にどのような違いがあるか確認しましょう。

	リースバック	リバースモーゲージ
仕組み	自宅を売却し、売却代金を一括で受け取る。売却と同時に賃貸借契約を締結し、毎月家賃を支払う。	自宅を担保に金融機関などから融資を受け、契約者が亡くなった後に担保を処分して元金を返済するシニア向けのローン。
契約形態	売買契約+賃貸借契約	融資(自宅を担保にお金を借りる)
自宅所有権	運営会社(買主)に移転する	所有権は自分のまま
毎月の支払い	家賃を支払う	利息のみ支払う(元金は死亡時返済)
利用対象物件	一戸建て、マンション	主に一戸建て(マンション不可のことが多い)
年齢制限	原則なし	あり(55歳~65歳以上など)

## 金利上昇の影響は？

リバースモーゲージの金利は、適用金利を半年ごとなどに見直す変動型が一般的なため、将来金利が上がれば利息負担が増加します。現在、民間の金融機関のリバースモーゲージの金利の相場は 概ね 2%台後半~4%台 で、住宅ローンよりやや高めに設定されています。

リバースモーゲージは、生存中に元本を返済せず、利息のみを支払う仕組みのため、繰り上げ返済を行わない限り、元本は減らないまま据え置かれます。そのため、金利が上がるとダイレクトに毎月の負担へ影響します。さらに、元本据置期間が長引くほど、その元本に対して毎日少しずつ発生していく利息が積み重なり、長生きするほど最終的に支払う総利息額が大きくなります。



一方、リースバックは、自宅を「売却」するため金利変動の影響を直接受けません。しかし、金利が上がると不動産会社などの事業者が資金を調達するコストや投資リスクが高まるため、間接的に影響を受ける可能性があります。そのため、将来の金利変動を見据えて、自宅の買取価格を低めに設定する傾向や契約更新のタイミングで家賃の値上げを打診されるリスクがあります。

どちらの場合も、現在の支払額や状況だけで判断するのではなく、金利が上がることも想定して確認しておくことが大切です。

資産の現金化と住居の確保を同時に叶えられるリースバックは、資金問題を解決するための選択肢となりますが、契約内容や将来の買い戻し条件などを曖昧にしたまま進めると、思わぬトラブルを招くリスクもあります。大切なマイホームだからこそ、メリットとデメリットを正しく理解することが欠かせません。

まずは信頼できる専門家に相談し、家族・親族とも相談しながら検討を進めるようにしましょう。



## ありがとうの本棚

弊社役職員が最近読んだ本を紹介させていただくコーナーです。  
資産運用や投資、金融や経済全般に関わらず様々な書籍を幅広く取り上げていきます。



### ～今月の一冊～

**緊縮資本主義：経済学者はいかにして緊縮財政を発明し、ファシズムへの道を開いたのか**  
クララ・E・マッティ（著）、中野 剛志（解説）、井坂 康志（翻訳）

今月は2022年の「フィナンシャル・タイムズ」年間ベストブックにもなった  
気鋭の経済史家であるクララ・E・マッティによる革命的野心作をご紹介します。

日本が経済成長せずに低迷した失われた30年の原因の一つは、緊縮財政  
によるデフレ経済だと言われています。

現在、高市政権は責任ある積極財政により国内の重点分野に投資をして強  
い経済を実現し、経済成長を目指していく方針ですが、積極財政によるインフ  
レと債務増加、将来の財政破綻リスクを懸念する財務官僚や緊縮財政派の経  
済学者や政治家の意見もマスメディアで多く取り上げられており、日本は今  
までは緊縮財政派が主流になっていたと考えられます。

本書では、緊縮財政がどのような目的で経済学者によって発明されて、そ  
れが実行されることによって、何が起こってきたのかを過去の歴史を紐解き  
ながら分析しています。

積極財政か、緊縮財政か、どちらが日本にとって必要なのかを考えていく上で、緊縮財政の真の目的を理解  
することは重要なことだと思いますので、興味のある方は是非読んでみてください。



## 毎月定期購入サービスのスケジュール

今後のスケジュールになります。各締切日に間に合わない場合、翌月の取扱いとなりますのでご了承ください。

	【新規で定期購入を申込】 【引落し口座変更】	【定期の引落し金額を変更】 【定期引落しを中止】	【引落日】	【買付申込日】	【約定日】 (ファンドの購入日)
2026年 7月分	6月4日(木)	6月24日(水)	7月6日(月)	7月14日(火)	7月16日(木)
2026年 8月分	7月3日(金)	7月27日(月)	8月6日(木)	8月17日(月)	8月19日(水)
2026年 9月分	8月5日(水)	8月26日(水)	9月7日(月)	9月15日(火)	9月17日(木)
2026年 10月分	9月3日(木)	9月24日(木)	10月6日(火)	10月15日(木)	10月19日(月)

## ありがとうファンド売買申込不可日のお知らせ

下記の売買申込不可日にお申込みされた場合、自動的に翌営業日以降の受付となりますのでご注意ください。

7月3日(金)	独立記念日(振替)	ニューヨーク	8月3日(月)	銀行休業日	アイルランド
8月31日(月)	銀行休業日	ロンドン			

ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人資産運用業協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信  
頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方  
は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。

## ありがとうファンドのリスク及び手数料等について

リスク	当ファンドは、ファンドオブファンズであり、国内外の投資信託証券などの値動きのある証券に投資します。また、外貨建て投資信託証券に投資する場合には為替の変動もあります。なお、投資信託証券の組入証券の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本が割り込むことがあります。ファンドに投資することに伴うリスクはお客様のご負担となりますし、ファンドへの投資による損益も全てお客様に帰属します。また元本及び利息の保証はなく、預金保険の対象でもありません。
手数料	申込手数料・換金手数料・信託財産留保金はありません。
信託報酬	ファンド純資産総額に年 0.99% (税抜 0.9%) 以内の率を乗じて得た額とします。 [実質的信託報酬 信託財産の純資産総額に対し年 1.30% ± 0.15% (概算)] ※当ファンドは他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。
その他費用	ファンドに組入れる有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料(消費税を含む)及び税金等の費用は信託財産から支払われます。また、その他、信託事務の処理に要する諸費用、監査費用、受託会社の立替えた立替金の利息等についても、信託財産の毎月末加重平均残高が 120 億円以上の場合には、諸経費のうち 100 万円(税抜き)までは信託財産から支払われます。※実費の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

※リスク・費用等の詳細につきましては、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。目論見書のご請求は、ありがとう投信株式会社 カスタマーサービス部まで。【〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-15-9 フリーコール 0800-888-3900】

■レポートで使用している指数・為替データの注記：騰落率は、ファクトセットよりデータを参照し、弊社にて計算しております。

※資料に記載されている各国・地域市場の指数は他に断りの無い限り以下の指数を使用しています。

【日本株】→FactSet Market Indices Japan 配当込み(税引き前配当再投資)

【世界株】→FactSet Market Indices World 配当込み(税引き前配当再投資)

【米国株】→FactSet Market Indices United States 配当込み(税引き前配当再投資)

【欧州株】→FactSet Market Indices Europe 配当込み(税引き前配当再投資)

【新興国株】→FactSet Market Indices Emerging 配当込み(税引き前配当再投資)

■R&I ファンド大賞について

R&I「ファンド大賞」は、R&Iが信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報(ただし、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではありません)の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務(信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務)です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。



ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 一般社団法人資産運用業協会会員

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認の上、ご自身の判断でお申し込みください。